第1の農場

1および2 - 納屋

納屋は、家畜飼料を適切に保管するために風通しが良いことが重要でした。納屋の建物の奥行きが狭いのはそのためで、広い入口や、場合によっては屋根（No.2）を備えています。No.3に降りる前に、No.2の屋根をご覧ください。屋根の後ろ側には、暖炉の形によく似た低く横幅の広い石造りの開口部があります。これは、収穫したブドウを投げ込む場所で、ブドウはここからワイン貯蔵室のブドウ圧搾機の中に直接落ちるようになっていました。こうして、収穫期に、急な坂を下って中庭まで重い荷車を運ばずに済んだのです。

3 – ワイン貯蔵室

圧搾機の中の右側に、ブドウが落ちてくる開口部の下側の口があります。この圧搾機は巨大な木製のてこを使って動かします。搾られた果汁は直接、「enchère（アンシェール）」と呼ばれる盥の中に流れていきます。これを手桶にとって、発酵樽に移しました。また、別の貯蔵室に展示されているクルミの搾油機は、搾油業が昔この地方で発達していた重要な産業であることを裏付けています。

4 - 家畜小屋

井戸と水飼い場の近くに位置しており、物たちは、中庭を通らずに外に出たり、水を飲んだりすることができました。牛3頭と山羊数頭を収容できるほどの大きさで、バター製造用の攪拌装置のコレクションが展示されています。

5 - 寝室

暖炉は、場所を取らないように寝室のいちばん小さな一角に設けられ、煙突の吸込みに必要な通気を確保するために窓の近くに位置しています。悪天候の日には、農民たちは、暖炉の火の前で、窓明かりを利用してちょっとした手仕事をすることができました。暖炉の近くにある2枚の瓦の上には、ヤニを染み込ませた麻の芯が置かれていました。これらの芯は、暖炉の奥にあるクランプで固定され、暖炉の煙が煙突に向かい、部屋の方に来ないように工夫されていました。

6 - 食堂

この部屋は全体が洞窟住居というわけではなく、暖炉のある奥の壁のみが石灰岩でできています。ここで食事がとられ、必要に応じてベッドも1、2台置かれました。穀倉はこの部屋の上にあります。常に湿気のある地下室に穀物を貯蔵しておくのは難しかったからです。

7 - 貯蔵室

一番小さな貯蔵室は、かつての住民がワイン樽置き場として使用していました。この部屋は1970年代まで、村人たちの集いの間として使われていました。

8 - 小中庭

この中庭は、牧羊の囲いとしても使用されました。それでも、囲いは不十分で泥棒や狼に狙われる危険があったため、夜の間羊の群れを放牧させておくことは不可能でした。

第2の農場

9 – ワイン貯蔵室

この部屋の展示は、樽の製造工程と、ブドウ畑での仕事やワイン作りについて紹介したものです。廊下では、ブドウ圧搾機が置かれていた場所とブドウが落ちてきた開口部の下側の口を見ることができます。

10 - 付属家屋

かまどは主に、麻や果物（プラム、洋ナシ、リンゴ）を乾燥させたり、パンを焼いたりするのに使われました。また、この部屋は洗濯場としても使用されました。

11 - 小厩舎

農民たちは、担架に肥料を載せて地上に運びました。道が急で手押し車では運べなかったからです。

12 - 夜の集いの間

長い冬の夜、村人たちはここに集まって、話したり手仕事をしたりしました。入口には扉があり、地面には藁が敷かれていました。農民たちは暖かい服装をしており、部屋に座った30人の身体から発せられる熱は、この部屋を13°Cから14°C程度に維持するのに十分でした。この室温は、当時、快な冬の温度とされていました。

13 - 小家畜小屋
この小さな小屋に、ロバかラバを1頭収容しました。秣桶と、通気のための2つの開口部をご覧いただけます。

14 - 19世紀の住居
前方に、穀物を貯蔵しておくための屋根裏の穀倉がありました。後方には、寝台として、岩を掘ってくぼみが作られています。かまどは常に暖炉の奥に置かれていました。かまどの扉から出る煙は直接暖炉の煙突へ抜けていき、室内に充満しないようになっていました。

15 - 縦穴のある部屋
この部屋には3種類の縦穴があります。明かりを取る縦穴（天窓）は、地下の部屋に明かりをもたらし、換気の役割を果たします。2階になった縦穴（井戸）では、地面および地下から水をくみ上げます。岩の掘削用の縦穴は、空洞が掘りあがった時点で塞がれます。

16 - 旧地下礼拝堂
一部が教会の下に位置するこの地下室は、もともと地下採石場でした。天井に設けられた大きな開口部から、巻揚げ機を使って石灰砂岩の塊を取り出していました。村の教会は宗教戦争（16世紀）の時に焼失しており、この時期に、採石場が礼拝堂として使われ始めたと考えられます。ゴシック様式の3つのアーチ、十字架、および彫像を収める壁面の窪みは、すべて岩を彫って作られたものです。この部屋自体が十字の形をしています。下の方の、横に並んだ3つの穴は、足場のために使用されました。

ご見学ありがとうございました。
またのお越しをお待ちしております！

Musée du Village Troglodytique de Rochemenier
14 rue du musée, 49700 Louresse-Rochemenier – フランス
Tel: 33 / (0)241 59 18 15 / email: visite@troglodyte.fr
internet: www.troglodyte.fr / Follow us on Facebook

本パンフレットは道に捨てないでください。v25

MUSÉE TROGLODYTIQUE ROCHEMENIER VILLAGE-TROGLO

日本語 - JP

ロッシュムニエ村は、40あまりの農場にわたって広がる、岩を掘って造られたおよそ250の地下室で構成されています。これらの地下室は、村の人口の増加に伴う新たな住居の必要性に応じて、徐々に造られていったものです。

最も古い住居は13世紀に遡るとされています。村はその後、19世紀まで徐々に拡大していきました。

岩は、ファルンと呼ばれる、貝殻破片を含む石灰砂岩で、酸度を中和する堆積物として土壌の改良にも使われていました。

ここでご覧いただけるのは、20世紀初めに使われなくなり、1967年に一般公開となった2つの農場を含む村の一部です。展示品、家具、農具、写真などを通して、最後の住民の生活が紹介されています。

石灰砂岩のアーチをくぐると、第1の農場の中庭に出ます。かつての入口は、右手の、中庭上部の、大きな門があるところに位置していました。ここは、17世紀末か18世紀初頭に造られたこの農場の全体的な外観をご覧いただける最適な場所です。

ロッシュムニエ村はすべて、人間が作り出したものです。地上は平野です。最初の農民たちはここで土地を耕していました。農民たちはまず、中庭を掘りました。そして、まるで広大な採石場のようなこの中庭の周りに、住民が住み、家畜や農具を収容し、仕事をするための地下室を造っていきました。

展示品は壊れやすいものです。
保存にご協力ください。
見学の際にお気を付けください。